
今日はいつものあの場所で

YB3

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今日はいつものあの場所で

【Nコード】

N4959D

【作者名】

YB3

【あらすじ】

中学のとき死んだ親友の背中を追いかけていた、少年の物語

俺の名前は藤原元雄、仲間からはフジと呼ばれていた。

そんな俺はいつも親に言われたとおり塾にいき、

親にいわれたとおり行きたくも無い高校に通っている。

俺はいつもそうだ、誰かに言われた事しかやらない、自分で物事が決められないのだ、

決めないといったほうが正しいのか、やりたくも無いのだが反論することの方が面倒くさいと思っっているからだ。

それは小学校5年生の頃

親友の藤田隆雄、俺たち二人はWフジとよばれていた。

俺達は自分もフジと呼ばれていたためかモト、タカと呼び合っていた。

そんなタカがある日死んだという報告が入った。

交通事故だったらしい、犯人も捕まっていない。

その頃からだった俺が面倒くさい事に首を突っ込まなくなったのは、今は亡き親友のためにも明るく生きていくのが良かったのだと思うのだが、

あいつが居なくなるとたん、俺はやる気がなくなった。

奴が事故にあったのは中学生の頃だった。

それでも俺は心のなかにむしゃくしゃした物があり暴力に明け暮れていた。

そんな俺が高校に入れたのは金があったからだ、俺の家は裕福だった。

金を払い高校に入ったのだ。

そんな俺は高校でも特別扱いを受けていた。
成績が悪くても進級できた。

そのせいで俺は周りから冷たい目で見られた。
特別扱いということだけで、

俺は面倒くさい事は嫌いだった、
出来れば俺は絡まれなくなかった。

だから無視していると、夜後ろからいきなり殴られた。
そのまま細い路地につれられてぼこぼこにされた。
声が聞こえる。

「なんでお前だけ特別扱いなんだ？」

「お前なんか死ねばいいんだよ。」

やがて声も止まり意識がはつきりしてきた。
血が出ている。

角材で殴られたような痛みだった。
体が動かない、人通りも少ない路地だった。

なぜ誰も通らない・・・

俺はそんな思いで人が通るのを待っていた。

また意識が薄れていく、ふと俺は昔の事を思い出した。

夕カと俺はいつも学校から帰ると、いつていた場所があった。

「作りかけの秘密基地」

作りかけのまま終わったのだ、中学に入っても作業は続いていた。
夕カが死んでからは作業は終わった。

思い出があらされるのは困るので誰にも言わなかった。

「そうだ、俺とモトだけの秘密の場所を作ろうぜ」

俺は夕カの声が耳に聞こえた気がした。

気のせいだとはわかっていた。

動かない体を無理やり動かし、入り組んだ道を誰にも見つからないように進んでいった。

たどり着いたあの丘は、誰にも手をつけられていなかった。

あの日の思い出が甦ってくる。自殺する前の日

そういえばタカと喋ったのもココが最後だった。

タカが言ったあの言葉「今日はいつものあの場所で・・・」

その後はなんと言ったかはよく覚えていない。

いつも通り作業を終わらせた帰りだった、

あの日の事故は・・・

そんな俺は自分に責任を感じていた。

俺がもつと早く切り上げていたらあいつは死ななかった。

そんなことを思っていた。

よく二人で座っていた秘密基地のベンチに腰をかけ俺は涙を流していた。

そのまま意識がなくなっていた。

目が覚めると病院のベッドの上だった。

偶然俺が血だらけで歩いているのを見た人がいたらしい。

本当に余計な事をしてくれた。

しかも不思議な事に俺のことを知らせた人は中学生くらいの身長で駆けつけたときにはもういなくなっただらしい。

あのままタカのいるあの世に行けばよかったと思っている。

俺はしょっちゅう病院を抜け出し秘密基地に行った。
秘密基地ではいつものように夕方に呼びかけていた。
「あのおとき人を呼んだのはお前だったんだろ？」

そんなはずがあるわけなかった。

でもそう思うしかともではないけど

これから生きていく自身がなかった……

(後書き)

書いてる途中に自分でも意味が分からなくなりました(笑

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4959d/>

今日はいつものあの場所で

2010年10月10日17時18分発行